

実践『ペルソナ』通信 (No. 118)

「腕時計」に関する調査 Side-*Be*

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大生の「腕時計」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

※実践『ペルソナ』通信 Side-*Be*とは、写真観察を行い、実態を考察した調査レポートです。

総括

今回の調査を通して、実践女子大生は半数以上の人腕時計を所持していることがわかりました。最も使用する腕時計に関してはアナログ腕時計の次にスマートウォッチと回答した人が多く、デジタル腕時計を上回る結果になりました。スマートウォッチはアップルウォッチを使用している人が多いこともわかりました。また、アナログ腕時計はベルト部分が革素材のもが多く、デジタル腕時計はラバー素材のものが多いこともわかりました。今回、アナログ時計、デジタル時計、スマートウォッチの3種類に注目して調査を行いました。各々よく使用する機能や魅力を感じた点が異なり、個人のこだわりが所持する時計の種類に関係していると考えました。

調査結果のポイント

(1) アナログ腕時計は細身のデザインが多い

ベルト部分が細く、細身でスタイリッシュなデザインのアナログ腕時計が多い傾向が見られました。時計部分は円形や長方形のものがありましたが、円形型のアナログ腕時計を使用している人が多いことがわかりました。

(2) デジタル腕時計はラバー素材が多い

今回の調査では少数派となったデジタル腕時計ですが、バンドの部分はラバー素材のものを所持している人が多いことがわかりました。また、白や黒といった単一色のデジタル腕時計を所持している人が多い傾向が見られました。

(3) スマートウォッチはアップルウォッチを使用している人が多い

様々な種類のスマートウォッチがあるなか、アップルウォッチを使用している人が多い見られました。フレームやベルトのデザイン・色・素材を自分の好みのカスタマイズしている人が多く、ホーム画面はアナログ表記よりもデジタル表記で使っている人が多い傾向

が見られました。

調査概要

- 調査対象：実践女子大生（全学年、全学部）
- 調査方法：フィールドワークによる写真撮影および対象者観察
- 調査期間：2024年7月～8月
- 調査場所：実践女子大学渋谷キャンパス

調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 佐々木汐璃・山川実紅・中山実咲

写真

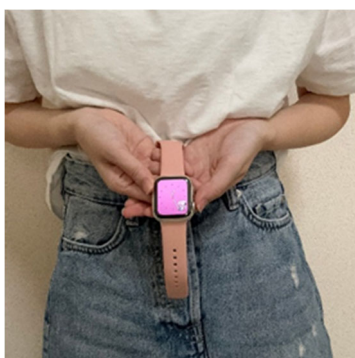
【アナログ腕時計】



【デジタル腕時計】



【スマートウォッチ】





調査後記

今回の調査を通じて、アナログ腕時計はシンプルでスタイリッシュなデザインが多く、デジタル腕時計はラバー素材の存在感があるデザインが多いことがわかりました。またスマートウォッチはフレームやベルトホーム画面を自分好みにカスタマイズしている人が多いことがわかりました。

2016 年度にも同様の調査を行っていましたが、今回の調査ではスマートウォッチの所持率が増加したという点に変化として挙げられます。スマートウォッチは、バンドや機能を自分好みにカスタマイズができます。この点に魅力を感じる人が多く、人気が集まっているのではないかと考えました。

さらに、A 面の調査結果と Be 面の写真観察から、デザインや素材がシンプルで、時刻の見やすい腕時計を使用している人が多く見受けられました。女子大生は、「ファッションとしての腕時計」という目的の前提に「時刻の確認」や「時間管理」がしやすい腕時計であるかという視点を大切にしているのではないかと考えました。

多くの学生の方に調査への回答・写真の提供をしていただいたことにより、本調査を無事に終えることができました。今回の調査で学んだことや反省点を今後に活かし、より良い調査・分析を心がけていきたいと思えます。

改めて調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。